

モスクワ博物館・美術館案内

大矢 温

・レーニン博物館 Центральный музей В. И. Ленина : Пл. Революции

現在閉鎖中。最寄り駅は地下鉄 Охотный ряд, Театральная, Площадь Революции。地下鉄の駅から地上に出て赤の広場の方に向かえば、赤の広場へはこのレーニン博物館と歴史博物館の間を通過して行くことになる。どちらの博物館も赤煉瓦のロシア風の建物なので迷うことはないはず。かつてこの博物館には、都心でもっとも清潔な無料トイレがあったが、ソ連崩壊以後は長い間、閉鎖されている。レーニン博物館だった頃はレーニンの肉声のレコードなどマニアグッズを買うことができたが、この手のグッズは博物館前で立ち売りしていることもある。

・歴史博物館 Исторический музей: Красная пл.

長い間修理のために閉鎖していた歴史博物館が、99年から部分的に公開されている。石器時代からロシア革命に至るロシアの歴史のすべてがこの博物館に展示されている（といっても過言ではない）。2000年夏以降、順次公開が進んでいる。赤の広場に面しているので、気軽に立ち寄れる。売店も充実しているし、博物館の前ではイワン雷帝のそっくりさんが記念写真に応じてくれる（有料）。

・考古学博物館 Археологический музей: Манежная пл.

赤の広場からマネージ広場に降りてくると、レーニン博物館の正面、ホテル・モスクワ跡地に沿って入り口がある。「ロシア初の地下の博物館」。入り口から地下に降りていくと、巨大な地下空間が現れる。マネージの地下街を建設したときの「穴」がそのまま博物館になっているのだ。地中に眠るモスクワの過去に興味のある人には一見の価値がある。交通の便がいいので、都心に出た際に寄ってみるのもいいだろう。

・革命博物館 Центральный музей Революции : Ул. Тверская 21

地下鉄 Пушкинская が最寄り駅だが、クレムリンから歩いていても遠くない。モスクワのメインストリート、トヴェリスカヤ通りの緩やかな坂道をクレムリン方向から上ってゆくとマクドナルド1号店のあるプーシキン広場のちょっと先の左側にある。革命前はイギリス倶楽部といわれ、金持ちや文化人がたむろした。プーシキン広場の悩み多きプーシキン像はここで有り金すべてをトランプですってスッカラカンになり、打ちしおれて愛妻ナターシャの待つアルバートの家に帰る姿だといわれている。ロシア革命に関する展示物のみならず博物館の前には、ソ連崩壊の引き金になった8月政変の時にバリケードに使われたトロリーバスなどの展示もある。「現代史博物館」と改名したらしいが、「革命博物館」の方が通りがいい。

・ノボデーヴィッチ修道院 Музей Новодевичий монастырь : Новодевичий пр. 1

地下鉄の Спортивная 駅には出口が2つあるが、どちらから出ても住宅地の中を5分ほど歩けば赤と白の煉瓦づくりの美しい城壁に囲まれた修道院に行き着く。土曜日曜はすぐ近くのレーニンスタジアムがあるため、付近は大変混雑する。修道院自体は大変長い歴史を持ち、しかも美しい。修道院の裏の墓地にはチェーホフ、ゴーゴリといった作家やフルシチョフ、グルムイコといった政治家の墓もある。墓地に入るためには墓地入り口（修道院の入り口とは別）、あるいは道を渡ったところにあるカッサで入場券を買う。そこで墓地のエクスクルシアの時間表があるので団体についてゆけばガイドの説明を聞くことができる。3月初めのマースリニツァの祭りが近づくと、裏手の凍った池の氷の上に滑り台やお城など子供の国が

出現する。徹夜でお勤めが行われる4月のパスハも必見。

・ **パクロフスキイ（ワシリー）寺院 Музей Покровский собор : Красная пл.**

最寄り駅は地下鉄 Охотный ряд, Театральная, Площадь Революции だが、Китай город からロシアホテル沿いに赤の広場に出ることもできる。色とりどりの塔が複雑に組み合わさった建物は外から見ても美しいが、内部のおどろおどろしい中世の雰囲気を楽しむのもいいし、塔の窓から見下ろす赤の広場やクレムリンもいい。

・ **コロメンスコエ Музей-заповедник Коломенское : Просп. им. Ю.В.Андропова 39**

最寄りの地下鉄駅は Коломенское だが、駅を出てから郊外に向かって10分ぐらい歩く。モスクワ川の川岸の小高い丘の上にある緑豊かな公園の中に昔ながらのロシアの建築が点在している。ここは昔、ピョートル大帝が宮殿を構えていた所なので当時の家具や武器を展示している博物館もある。博物館の横で民芸品のおみやげを買うこともできる。林の中にはアルハンゲリスコエから移設されたピョートル1世の小屋（実物）も再現されている。ロシア古来のブランコや観覧車で遊べる一角もある。ここでも3月初めにマースリニツァの祭りがおこなわれる。

・ **モスクワの歴史博物館 Музей истории города Москвы : Новая пл. 12**

最寄りの地下鉄駅は Лубянка だが、Китай город の Лубянка 寄りの出口から歩いても近い。Новая 広場（実際は幅の広い道路）沿いの煉瓦色の建物。小さな博物館だが古代から現在までの街の歴史がわかる。19世紀の街並みがソ連時代に大規模に改造された様子は一見の価値がある。ある程度モスクワの地理に詳しくなってから見た方が興味深いと思う。

・ **ボロジノの合戦博物館 Музей-панорама Бородинская битва : Кутузовский пр. 38**

地下鉄 Парк победы から都心方向に徒歩。クツォフ通りに面して巨大なクツォフ元帥の銅像があるので迷うことはない。1812年にナポレオンがロシアに侵攻したとき露仏の雌雄を決したのがボロジノの戦いだった。入り口から入って階段を上ると円筒形の建物の中心に出る。なんとこの建物の内部全体がボロジノの合戦を再現したジオラマになっているのだ。戦争に興味のない人も一見の価値あり。近くに **Поклонная гора** の戦勝記念公園あり。ロシア版「靖国神社」。戦車や大砲に興味のある人は、戦勝公園内にある「**赤軍博物館**」がおもしろいかもしれない。

・ **クツォフの小屋 Музей Кутузовская изба : Кутузовский пр. 38**

ボロジノの合戦博物館の前にあるのがこのクツォフの小屋だ。ボロジノの合戦を指揮し、ナポレオンを破ったときのロシア軍の指揮官がクツォフ将軍。この将軍がモスクワを明け渡す決心をしたのがこの小屋だと伝えられている。

・ **クレムリン Музей Московского Кремля :**

地下鉄の Библиотека им. Ленина を降りるとどの出口から出てもクレムリンの城壁が見えるはずだ。この城壁からアレクサンドロフスキイ公園をまたいで架け橋がのびている。架け橋の終点がトロイツカヤ塔。クレムリンの内部にはこのトロイツカヤ塔から入る。入り口に金属探知器がある。大きな荷物は持ち込めな

いので橋の下の手荷物預かりにあずける。クレムリン内の寺院に入るにはクレムリンに向かって架け橋の上、入り口横のカッサで切符を買う必要がある。クレムリンの中では切符は売っていない。ただし、午後4時以降は入場無料。原則、外国人料金を適用されるが、少人数ならツモの学生証を示してロシア人学生料金で入場することも可能。武器庫に入るときもここで切符を買う。ただし武器庫は全てエクスクルシアになっているので時間に注意すること。武器庫の切符は外国人料金（学割で\$10 ぐらい）が適用されるが、外人料金であることを告げれば行列を無視して入場することができる。多少入場料が高いがそれだけの価値はある。売店ではクレムリン観光のCD-ROM などここでしか手に入らないおみやげも売っている。

・ **トレチャコフ美術館 Третьяковская галерея : Лаврушинский пер. 10**

地下鉄 Третьяковская で降りて駅前の雑踏を通り過ぎると、美術館へと続く妙に落ち着いた、小洒落た道が現れる。展示されている絵画の質、量ともにエルミタージュ美術館に匹敵する。また売店が充実しているのでここでアルバムやビデオなどが手にはいる。食堂やカフェも安くて清潔。ツモの学生証で学割が利くので何回かにわけてみるとよい。売店や食堂までなら入場無料。

・ **プーシキン美術館 Музей изобразительных искусств им. А.С.Пушкина : ул. Волхонка 12**

地下鉄の Кропоткинская 駅のクレムリンよりの出口を出ると巨大な救世主キリスト大聖堂が見える。美術館はこの大聖堂と道を挟んだ向かい側のギリシャ風の格調高い建物。ツモの学生証で学割が利くので入場料は安い。フランス印象派のコレクションからエジプトのミイラまで展示品は充実している。ただし、この彫刻の多くは模造品（絵画は全部本物）。トロイ遺跡の出土品や第二次世界大戦中にドイツから分捕ってきた美術品の展示など、ときどき掘り出し物の展覧会を催している。売店もおもしろいものを売っているし安くてきれいな食堂もある。新館は別料金。

・ **ドンスコイ修道院 Донской монастырь : Донская пл. 1**

地下鉄 Шаболовская 駅前から 14 番の路面電車で約 5 分。路面電車が右に曲がって坂を上りきったところで降りる。進行方向右側に修道院の壁が見えるはず。この墓地の奥にはスターリンによって破壊された救世主キリスト大聖堂の巨大なレリーフが保存されている。修道院周辺は物乞いが多いので注意。

・ **農奴美術館 Останкинский дворец-музей творчества крепостных : 1-я Останкинская ул. 5**

地下鉄の ВДНХ で降りて左の方へテレビ塔に向かってしばらく歩くと（モノレールで 2 駅）池の畔にこざい教会と並んで古典的な貴族の屋敷があらわれる。これはシェレメーチェフ伯が農奴に建てさせた屋敷で、中には立派な劇場まである。19 世紀のロシア文学に興味のある人は当時の貴族の生活をかいま見ることができる。ただし、大理石製に見える柱は塗り物だし、天井のレリーフも注意してみると微妙に濃淡がついた絵であることがわかんと思う。В В Ц周辺は治安が悪いので、一人で行ってはいけない。

・ **アンドレイ・ルブリョフ博物館 Центральный музей древнерусской культуры и искусства им. Андрея Рублева : Пл. Андроньевская 10**

最寄りの地下鉄は Таганская 駅だが、駅を降りて北西の方向にむかって革命前の典型的なモスクワの面影を残す路地を約 10 分歩くと、ヤウザ川の小高い川岸に白い壁の修道院が見えてくる。これがルブリョフ博物館だ。修道院の敷地内にはルブリョフのイコンを展示する博物館のほかにも教会が残されているので

のぞいてみるといい。トレチャコフ美術館のアイコンでは満足できない人にとっては珍しいアイコンをみるチャンス。一見の価値がある。入場料はロシアの学生証が通用しないで外人学割を請求される場合もある。ソ連崩壊以後、修道院内は撮影禁止。

・ **人形博物館** **Музей Центрального театра кукол : Садовая-Самотечная ул. 3**

中央人形劇場に付属の人形博物館。博物館にはいるためには人形劇場に入場する必要がある。世界中の珍しい人形が展示されている。地下鉄の駅からは少し離れたところがあるので Маяковская か Сухаревская で地下鉄を降りてサドーヴァヤ環状線をБ、Бк、または10番のトロリーにのって行く。人形劇場の入場券は入手難なので、日頃からカッサを注意して見つけたら買うのがいいだろう。

・ **ゴーリキイの家博物館** **Музей-квартира А.М.Горького : ул. Поварская 25а**

Пушкинская か Арбатская からブリバール環状線をしばらく歩き、ゲルツェン通りで都心と反対方向に曲がるとすぐ。水をモチーフにしたアールデコ風のしゃれた建物が革命作家ゴーリキイの家だ。とはいえこの家は革命後、貴族の館を接収した革命政府からゴーリキイが譲られたもの。革命やゴーリキイに興味がない人でもユニークで美しい内装やゴーリキイの根付けのコレクションなど「お宝もの」がいっぱいあるので行ってみて損はない。ツモの学生証で学割が利くうえ、いつでも空いている。館長がジダーノフ先生と同級生。

・ **トルストイの家博物館** **Музей-квартира Л.Н.Толстого : ул. Льва Толстого 21**

Парк культуры で地下鉄を降り、コムソモール大通りを都心と反対方面に歩くと5分ぐらいで道の右側に教会が見えてくる。この角を右に曲がるとトルストイ通りだ。茶色の木の塀に囲まれた博物館は庭の木立からそこにいる犬まで文豪トルストイが住んでいた当時のまま、忠実に再現されている。家の中も家具や食器からトルストイのコートや自転車に至るまでいまでも奥の書斎からトルストイが出てくるのでは、と思わせる。ファンならずとも一見の価値あり。なお、隣はトルストイの時代からのビール工場。館内が当時のまま忠実に再現されているために日が暮れると閉館（照明がない）。

・ **プーシキンの家博物館** **Музей-квартира А.С.Пушкина : ул. Арбат**

観光客でにぎわう旧アルバート通りの Смоленская より、マクドナルドの筋向かいぐらいのところに立つ空色の建物。プーシキンが愛妻ナターリヤと暮らした家だ。1999年に改修が終わって一般公開されるようになった。

・ **マヤコフスキイ博物館** **Музей В.В.Маяковского : пр. Лубянский 3/6**

地下鉄の Лубянка 駅にはいくつか出口がある。ルビヤンカ広場の Детский мир の反対側、旧 КГБ にむかって右側の大きな建物を注意して見れば1階に赤大理石のマヤコフスキイの頭が見えるはずだ。この建物の1階をくぐり抜けて中庭にでるとそこに博物館がある。一歩中に入ると、古い4-5階建ての建物の外側を残して内側全部（マヤコフスキイの部屋1部屋だけをのぞいて）を改造した構造にきつと驚かされるに違いない。展示物もとても前衛的でおもしろい。マヤコフスキイやロシア・アバンギャルドに興味のない人でも必見。ツモの学生証で学割が利くので入場料も安い。館内の撮影も大目に見られることが多い。

・ **オストロフスキイ博物館 Музей Н.А.Островского : ул. Тверьская 14**

ピョートル I 世やエリツィン元大統領など、ロシアの有名な人たちの蠟人形がある。トウェリスカヤ通り沿いなのでアクセスもよい。都心に出た際に寄ってみてもおもしろい。ただし、「何でオストロフスキイなの?」という疑問は残る。

技術博物館 Политехнический музей : Новая пл. 3/4

Лубянка 駅を出て、Китай-город の方を向くとモスクワの歴史博物館の正面にクリーム色の巨大なロシア・ゴシック建物が見える。これが博物館。ソ連時代の重厚長大技術の粋がここに展示されている。とはいえ展示品は埃にまみれ広い館内はがらんとしている。ときどきおもしろい展示会が開かれるのでそのついでに館内を見るといいだろう。

・ **宇宙博物館 Мемориальный музей космонавтики : Пр. Мира, Аллея космонавтов**

地下鉄の ВДНХ 駅をでるとすぐに空高くそびえるチタン製のオベリスクが見えてくる。頂上にはロケットがついているのですぐにそれが宇宙博物館だとわかる。オベリスクの根本、駅とは反対方向に博物館の入り口がある。小さな博物館だが、本物の人工衛星、人類初の宇宙飛行のビデオなど、展示品は一見の価値がある。また、ここへ来たら売店に注意すること。本物の宇宙服を着て記念撮影、宇宙食の缶詰、ロケットのジュラルミンでできたメダルなど、なにかしらおもしろいものを発見できるだろう (ないこともある)。学割は利く。В В Ц 周辺は治安が悪いので、一人で行ってはいけない。

・ **地学博物館 Музей землеведения : Ленинские горы главное здание МГУ**

地学博物館というよりはモスクワ大学本館展望室と行った方がいい。モスクワ大学本館の 26 階から 28 階までが学生のための博物館になっている。26 階まで上れるエレベーターは本館 2 階から 1 本だけなので発見に手間取るかもしれないが、丘の上にそびえ立つモスクワ大学本館の最上階からの眺めはすばらしい。天気の良い日にぜひ訪れることを勧める。入場は無料だが、本館に入るためには学生証が必要。

・ **古生物博物館 Палеонтологический музей им. Ю.А.Орлова : Профсоюзная ул. 123**

ちょうど地下鉄の Теплый стан と Коньково の中間あたりにある。距離的には若干 Теплый стан の方が近いが駅前が市場で混乱しているので Коньково から歩いた方がよい。Коньково から歩いてゆくと 5 分ぐらいで道の左手に真新しい煉瓦づくりの建物が見えてくる。恐竜をあしらった垣根を見ればそれが古生物博物館であることはすぐわかる。展示品は三葉虫やオウム貝の化石から恐竜の化石標本、マンモスの骨格標本など興味が尽きない。学割が利くので入場料も安いので是非訪れるべき博物館。

番外 :

ブルガーコフのアパート Большая садовая д.10

ブルガーコフの住んでいたアパート。階段の落書きに注目。(亀山郁夫先生ご推薦)